



愛媛県

果試ニュース

第4号 平成9年5月



新 秋



太 秋

農水省の「食料需給表」によると、わが国の平成7年度の食料自給率（供給熱量ベース）は42%、昭和40年度の73%から、この30年間に31%も低下している。このうちで果実の自給率も10年ほど前の昭和60年度に77%であったが、年々低下して平成7年度は49%となっている。

このほど発表された農業白書（平成8年度）も、これまでの国民生活の変化と農業・農村の変ほうを分析し、自給率の低下や農地の大幅減少、担い手不足の深刻化などの問題点を明らかにしている。

こうした状況をみるまでもなく、わが県の果樹農業は大きな試練の時代を迎えており、試験場としても効率的な省力生産によって、いかに所得向上を図るか、いかに生産力の高い樹園地としていかすか、技術的側面から現場に役立てるべく試験研究に取り組んでいる。

場長 向井 武